

2019年全日本カート選手権 FS-125部門/FP-3部門 西地域第4戦  
2019年ジュニアカート選手権 FP-Jr部門/FP-Jr Cadets部門 西地域第4戦 [JAF公認No.2019-3502]

開催日：2019年7月27～28日 開催場所：神戸スポーツサーキット 格式：国内/準国内 主催：KSC [団体登録No.公認82801]

フォト/遠藤樹弥、JAFスポーツ編集部 レポート/水谷一夫

奥田もも選手は全日本選手権デビュー4戦目にしてようやく優勝を掴むことができた。



## FS-125 部門は奥田もも選手が渴望の初優勝!!

**2**019全日本カート選手権は、いよいよシリーズの後半戦に突入だ。神戸スポーツサーキットでの西地域第4戦。朝から空を覆っていた薄雲は徐々に消えていった。午後になるとサーキットには日差しが降り注ぎ、選手たちは暑さとの戦いも強いられることとなった。

FS-125部門の決勝は、3台による優勝争いの展開。ポールから先頭に行くのは今季から参戦の女性ドライバー、奥田もも選手。その後ろには嶋田隼人選手と居附明利選手が続く。デビュー戦からトップレベルの速さを示しながら、

2戦続けて目の前の勝利を掴み損ねた奥田選手。抜群のスピードを前戦で発揮して初優勝に結実させ、その流れに乗りたい嶋田選手。開幕2連勝でランキングの首位に立ち、ポイントレースの優位を固めたい居附選手。3選手は各々の思いを抱えながら、それぞれ2～3車身差の間隔で周回を重ねていった。

奥田選手は予選ヒートでトップの嶋田選手の真後ろを走り続け、最終ラップの4コーナーでの見事な一発逆転でポールを獲った。それは、予選で手の内をさらしてでもスタートで有利なイン側のグリッドを獲りたいという、勝利への

強い執念の表れだった。その狙いどおり、奥田選手はトップのまま決勝を発進したが、思うように逃げられない。一方の嶋田選手と居附選手も、前にアタックを仕掛けられる距離まで接近できない。ワンミスで状況が一変する膠着状態の中、互いに全力を尽くしての静かな熱闘は、終盤まで続いた。

その戦況に変化が起きたのは26周レースの19周目。嶋田選手のペースがやや鈍り、奥田選手との距離が離れ始めた。すると居附選手が嶋田選手に急接近、残り3周で2番手が入り替わった。このバトルによって、奥田選手のリー



FS-125部門/1. 歓喜のあまり嬉し涙が止まらない表彰式となった奥田選手。周囲からの祝福を受けて、時折笑顔を見せてくれた。2. ポイントリーダーの居附明利選手はレース終盤に2位を奪取。3. 前戦から好調な兆しを見せていた嶋田隼人選手だったが3位入賞に終わった。



FP-3部門／4. 予選2番手だったがローリングスタート中に失速、最後尾スタートから怒涛の追い上げで2位獲得の藤井亮輔。5. 慣れ親しんだ神戸スポーツサーキットで連勝を飾りたかった岡本旬司選手は悔しい3位入賞。6. トップ争い5台の激闘を制したのはスポット参戦のHIROTEC選手。



FP-Jr部門／7. 安藤哉翔選手は残り3周で加納康雅選手の先行を許すが、最終ラップに再逆転し、歓喜のガッツポーズで初優勝を遂げた。8. 加納選手は優勝こそ逃すも、初ポイント獲得が2位表彰台と飛躍の大会に。9. 3位入賞は迫隆眞選手。西地域はここまで4戦すべてでウィナーが入れ替わることとなった。



FP-Jr Cadets部門／10. 佐藤ころ選手は終盤戦に後続のチャージを受け4番手に後退したが、最終ラップに元の位置へ戻って2戦連続の2位に。11. スポット参戦で3位入賞を果たした中西優希選手は、3台抜きでのデビュー戦表彰台ゲット。12. 松本琉輝斗選手は一気にリードを広げ、今季3勝目となる2連勝を果たした。

ドは1秒以上に拡大。これで勝負は決した。ピットレーンで見守る仲間たちに何度も拳を振りかざしながらチェッカーを受けた奥田選手。待ちかねた初優勝の瞬間だ。

「メンタル的にめちゃめちゃキツイレースでした。ゴールした時は嬉しすぎてヘルメットの中で泣いていました」。女性ドライバーとして史上4人目の全日本ウィナーとなった奥田選手は、この大会の満点ポイントを獲得し、ポイントリーダーの座をキープした居附選手に7点差と迫ってきた。

FP-3部門の決勝のポールは、昨年に引き続きホームコースでの大会にスポット参戦してきたHIROTEC選手。タイムトライアル1位から予選ヒートを無敵の独走で制し、勝利にもっとも近い位置へとマシンを並べた。

そんなHIROTEC選手に対して、決勝ではフル参戦組が奮起。岡本旬司選手と坂裕之選手が序盤で1・2番手へと上がり、HIROTEC選手にレースの流れを掴ませない。やがてこの戦いに森川貴光選手と岡田廣敬選手も加わり、先頭集団は5台一列となった。

HIROTEC選手は数周でトップを取り戻すが、後半重視のセッティングのためか、予選ヒートのようにリードを築けない。ラスト6周、岡本選手と坂選手が再びHIROTEC選手の前へ出ると、HIROTEC選手は2周後にトップを奪い返す。ここで岡本選手がすかさず逆襲に転じたが、アタックを仕掛けた際にラインが乱れた。HIROTEC選手はこのチャンスを見逃さず一気にリードを広げ、真っ先にチェッカーをくぐった。41歳で酷暑の熱戦を制したHIROTEC選手は、「今年初めての優勝が全日本でした。最高です!」と破顔一笑だ。

一方、2位争いには急展開が。2番グリッドに着きながら、スタートに向かうローリングの最中に失速した藤井亮輔

選手が、最後尾転落からの猛追でここに追い付いてきたのだ。ラスト4周でセカンドグループに割って入った藤井選手は、最終ラップに坂選手と岡本選手を一気にパス、2位を奪って開幕戦以来の表彰台に立った。3位は「悔しさしかない」という岡本選手。坂選手は4位に終わるも着実にポイントを伸ばし、西地域ランキング首位の座を確固たるものにしていく。



13.F3-125部門入賞の皆さん。14.FP-3部門入賞の皆さん。15.FP-Jr部門入賞の皆さん。16.FP-Jr Cadets部門入賞の皆さん。